焼津体育館再整備検討委員会 第5回会議

- 1 日 時 令和5年3月29日(水) 10:00~11:00
- 2 会 場 焼津市役所本庁舎6階 会議室6A
- 3 出席委員 清水 榮男(元自治会連合会長)
竹内 孝一(焼津第2自治会長)
下村 勝彦(焼津市スポーツ協会副会長)
小林 敏之(焼津市スポーツ推進委員長)
齋藤 剛(静岡福祉大学)
- 4 事務局 河守 邦人(スポーツ課長)
村松 護(スポーツ課参事)
伊東 正貴(スポーツ振興担当係長)
鈴木 優太(スポーツ振興担当)
- 5 次 第 (1) 清水委員長あいさつ
(2) 経過報告
(3) 建設地の決定について
(4) 今後の計画
- 6 会議録 概要は次のとおり

委 員：中央広場はいつまで使えるか。調査が始まるまで使えるということでしょうか。

事務局：作業は、埋蔵文化財の調査が最初になるので、それ以前は使用できる。

委 員：住民・使用者に対しての周知の仕方についてはどうなっているか。

事務局：今使用している方についてはすでに連絡を取っている。再度、時期が来たところで周知させていただく。

委 員：住民から出ている話として、中央広場とまちなか広場の間に道路があるが、使えなくなると困るという話が出ている。その辺は心配しなくてよいか。

事務局：道路については現状のまま使用できる予定である。

委 員：埋蔵文化財調査の期間はこれくらいでよいのか。

事務局：埋蔵文化財調査は歴史民俗資料館が対応するが、協議の結果、約4か月で調査は終了するのではないかと回答をもらっている。ただ、特殊なものが出てしまった場合には、少し遅れが生じる可能性もあると聞いている。

委員：埋蔵文化財調査では、建設地の中を全部掘り返すのか。

事務局：全部ではない。建物の位置を基本設計の中で決め、基礎がどの位置にあるのか確認し、深く掘るところだけでいいと言われている。

委員：基礎部分だけをやるということか。

事務局：そうなる。深く掘る所で約80 cm以上が概算だが、全部掘るということではない。

委員：中央広場内のトイレはそのままそこに活かすのか。

事務局：基本設計を進める中で、皆様の御意見などを聞きながら、撤去するか、存続するか考えながら進めていきたい。

実際にいつでも使えるトイレの必要性について、皆様どうお考えか。

委員：トイレがあると建物配置が相当制約されると思う。

委員：建物の配置からいくとそうだと思う。ただ聞くところによると、ここのトイレの利用者は自分を含め多いそう。トイレに行くために、わざわざ体育館に上がって靴を脱ぐのも面倒だから、あれば便利かとも思う。

事務局：そのような事も基本設計の中に入れ込んで、検討材料として進めていきたいと思っている。

委員：建設予定地の中に駐車場を含めるということだが、現在の駐車場をそのまま使用するという認識でよいか。

事務局：駐車場の配置については、建物の配置と、現在共同利用している商工会議所の使い勝手による。また、横のまちなか広場も検討しながら、駐車場については考えていく。

委員：4の(3)で、主要機能の中に防災機能を入れるとあるので大丈夫かと思うが、是非やってもらいたい。現在は焼津中学校が災害時の避難場所となっているが、それで学校が閉鎖しては困るので、焼津体育館を代わりに使ってもらい、学校は早く開校してもらったほうがいい。

事務局：そちらに関しては防災担当者ともよく協議をして、取り入れていきたいと考えている。

委員：体育館の施設として休館の日もあるため、施設自体は塀などで囲まなくてはならないのではないか。そうなるとう自由に使えるトイレを残す場合は、それに応じた設計が必要だと思う。例えばまちなか広場へ移す必要もあると思う。

事務局：実際使われる方は多いため、トイレを残す場合は、利用方法も含めて設計の中で検討していく。

委員：シーガルドームは指定管理者が運営しているのか。

事務局：市の直営となっている。

委員：一緒にするべきとは言わないが、どちらの方がうまくいくのか。

他の指定管理者がやっている公共施設でどんな問題があるのかなどを含めて、焼

津体育館はどうしたらいいか検討してもらえればありがたい。

事務局：承知した。

委員：前回の検討委員会はついぶん前で、今どこまで何をどう作るのか、どこまで決まっているかわからないが、総合体育館・小中学校の体育館との違いについて、どのようにお考えか。どういう目的で建てるか押さえた上で、考えたいと思う。

事務局：基本的な位置付けとして、シーガルドームは大きな体育館で観客席も設け、県大会・全国大会などの大きな規模の大会・イベントも出来る施設となっている。

焼津体育館は市民のための体育館で、主に市内の大会、各競技団体の方が市民大会・市内大会などを実施していただくように考えている。

小中学校の体育館は、基本的には子供たちが利用する形で作っており、すべての施設で大きな大会が出来るわけではない。基本的には地域や市内のスポーツクラブが、普段の練習に使っていただけるように現在運用している。

委員：では新しい焼津体育館は、現在使われているような方々に、継続して使われるということを想定しているということでしょうか。

事務局：はい。

委員：以前お話したと思うが、多様な方々がいるなかで新しく作るということで、普段体育館や運動になじみのない方も参加できるように、なにか仕掛けみたいなものが出来たらいいと思う。

たとえば子育て世代とか若い方のニーズとかも把握した上で、ある程度想定していくのも重要だと思う。

運営方法が重要になると思うが、民営の場合は、それは出来上がったものをなんとかしてくださいと言うのか、それともある程度設計の段階で民間が入ってくるのか。

事務局：今回は公設のため、設計については市の方で行う。その中で各競技団体の意見を聞きながら、現在の利用に遜色ないような体育館にする予定である。様々な方が使えるようにとのことだったため、指定管理を意識しており、色々な事業を行っていただくことができると考えている。

例えば指定管理者は色々なところで体育館を管理し、市民を対象にした各種イベントや教室を行うノウハウを持っている。今は焼津でスポーツ教室が開催されているが、拡張した形で焼津体育館でも市民の方が参加出来るような教室を開催していければと考えている。

来年度から設計に入っていくため、場所と建設費用については限られた部分があるが、現在の体育館を基本とした中で新たに追加できる機能を検討していく。

委員：最近eスポーツなどが取り上げられるようになってきていて、これはみんなが見て楽しむみたいな新たなニーズを捉えることが出来るかもしれないし、可能性を考えてみるのも面白いと思う。

委員：エアコンのことはどう考えているか。夏場は厳しいので必要なものの一つだと思う。

事務局：整備する形で考えている。

委員：子ども達や母親もくる「サロン」的なものは検討しているか。もしくはちょっとお茶を飲む場所など。民間施設では自動販売機すらないところがある。

事務局：再整備プランの中にあるが、誰でも利用しやすい施設ということで、スポーツをしない方でも来ていただいて、話などが出来るスペースは確保したい。

また、子供たちなども対象者として、施設設計を考えていきたい。

委員：料金については諸々厳しいが、利用しやすさは料金設定だと思う。

事務局：民営になった場合には出てくる問題と思っているため、よく注意し決定したいと考えている。

【今後の予定について】

令和5年度の基本設計が終わる前に、ある程度基本設計が決まったところで検討委員会を開催する。

実施設計も進捗状況を報告し、意見を伺いながら進めていく。